【土木計画学研究・講演集 No.24（2） 2001年11月】

土佐道路の景観整備に関する意見交換会について（事例紹介）*

About the opinion exchange meeting about the landscape maintenance of Tosa road（Case inquiry）*

十川倫男** 吉田博文 *** 曽我部豊****

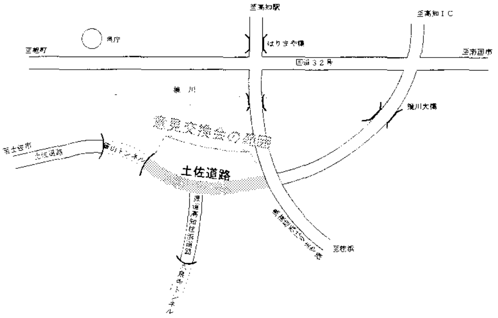
By Michio SOGAWA, Hirofumi YOSHIDA and Yutaka SOKABE

1. はじめに

現在、公共事業における地域住民とのトラブルは跡を絶たない。また、社会経済の悪化などから、行政などへの不信感も高まっており、事業効果が十分得られる事業でないと納得が得られない情勢となっている。また、国民の価値観も多様化し十分な説明を行わない公共事業は困難な時代となっている。

この様な背景の基、潮江地区は新しい街づくりを目指して区画整理事業を進めている箇所であり、当地域内の県道・高知桂浜道路では『女性たちの視点』で、既に景観整備を行った実績もある地域である。

こうした状況の中で、土佐道路（潮江地区）も景観に配慮した歩道整備や町並みとで、地域の方などに、意見や要望を聞き、計画の立案に向かって作業を進めている過程を事例紹介する。



図－1 意見交換会の範囲

*キーワード：計画手法論、市民参加

**国土交通省四国地方整備局高知工事事務所工務第二課係員

***国土交通省四国地方整備局高知工事事務所工務第二課課長

****国土交通省四国地方整備局高知工事事務所工務第二課係長

（〒780-8023 高知市六泉寺町 96 番地 7

TEL. 088-833-0111 FAX. 088-833-5140）

2. 地域住民の計画参画への誘いの必要性

現在の公共事業を行ううえでは、行政側の説明責任、情報提供及びコミュニケーションが必要とされており、特に道路事業においては、地域住民とコミュニケーションを図ることにより、地域の協力が得られ道が育てられることで、親しまれる道づくりとなる。

また、計画へ反映させる最良の手段は、将来の道の姿を地域の方々と共に描き、実行することが重要である。

特に、今回の土佐道路を取り巻く周辺地域は、第一種または第二種の住居地域に指定されていることや、区画整備事業が展開していること、更に、小・中高等学校が存在し、児童らが本線を横断して通学することなどから、地域と密着した道路の形成を図る必要がある。

このことから、今回土佐道路の事業計画を進めるにあたっては、地域住民の方々が計画参画してもらうことにより、完成後の土佐道路への期待と将来の道づくりへの新たな関係・協力体制が得られるものであると考えた。

3. 地域住民の参画手法の検討

計画参画への手法として、アンケート調査やヒアリング調査があるが、これらは多数決的な決定手法であることや、対象者が限定されること及び聞き取り項目が単一、限定化されるなどの欠点がありあまり望ましい手法とはいえない。また、これからの公共事業の在り方としては、利用者側の意向の反映・コミュニケーション型まちづくり行政の展開につなげる手法として最も有効な方法を取り入れるべきである。

これらのことから、今回、土佐道路の景観整備については、多くのパターンの中から、ワークショップ形式による参加手法を採用し、事務局側と平等な立場で、地域住民と共にオープンな意見で、それらの方々が主体的に参加してもらうこととした。

また、意見が偏らないように、参加してもらう方々全員の思いを語ってもらうために、発言機会の平等と意見の集約に努めることとした。

ただし、この手法は地域の方の主体性を重視することから、時間がかかりそうなことや、自由な意見が発案されるので、どこまで聴き、どこまでその意見を計画に反映させられるかといった懸案事項もあった。

また、意見交換会の委員の方の選考については、当土佐道路が地域に密着した道であるため、周辺地域の有識者などから、参加していただくこととした。

4. 意見交換会に向けての事前準備

まず、参加してもらう委員の方に、どの範囲の意見交換をしてもらうのか、道路の周辺はどの様な性格の街であるのか、道路の景観を良くするためには具体的にどの様な要素について考えれば良いのか、といったことをわかってもらうための資料を初回の意見交換会に向け準備を行った。

また、地域の先進事例として、『たまごの割れないみちづくり』の体験談の説明を行ってもらうことで、具体的な手法や苦労や工夫した事項などを参考にしてもらうこととした。

なお、司会者については、初回は事務局側主体で行い、次回からは出席委員の中から選考することで、より民主的かつ積極的な意見が出て、皆でつくるという意欲がでると考えた。

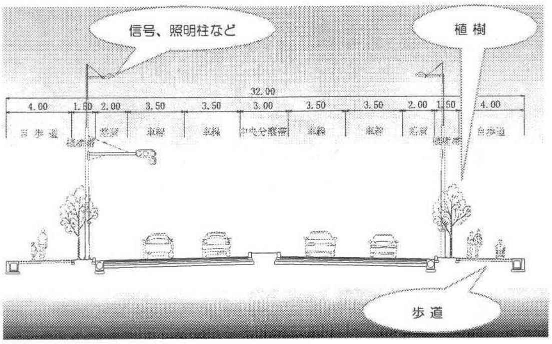
つぎに、会場の席の設置についても、説明者が前で発表し全員が前を向く、いわゆる学校形式は避け、ロの字に囲むような形式で、全員が向かいあって話せる環境とした。

5. 意見交換会の実施内容

（1）道路景観を良くするための要素

まず、初回において道路景観をよくするためには、主に次の三つの要素を検討することが重要であることをわかり合った。（図―２）

- 歩道（舗装材の材質、色合い）
- 植樹（植樹桝の設置、高木及び低木の樹種）
- 信号、照明柱など（形状や色合い）

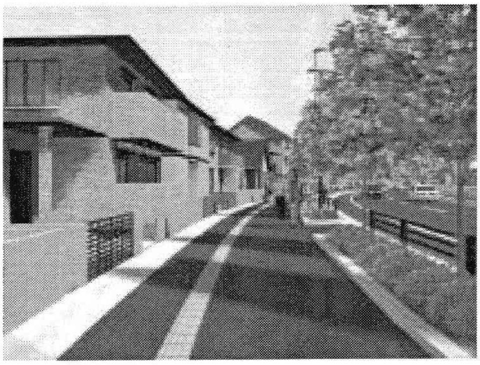


図―２ 道路の景観要素

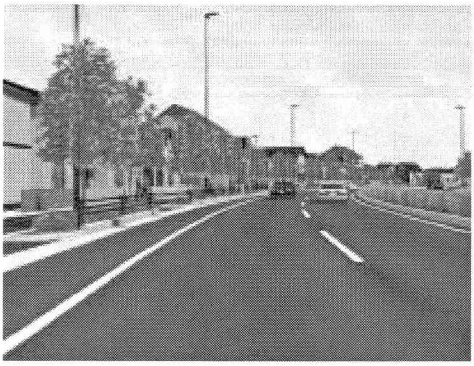
（２）イメージＣＧ図の作成

前項で説明した、歩道、植樹及び信号・照明などの道路の景観要素については、項目ごとにそれぞれ単体で何が良いのかを検討していくことになるが、単体で選定した結果が、全体像としては非常にわかりづらく、組み合わせによっては、単体が良くても全体バランスが悪い場合がある。

そこで、今回は全体像の形を委員の方々にわかってもらうために、イメージＣＧ図の作成を行った。（図―３、図―４）



図－３ イメージＣＧ図（歩行者の視点）



図－４ イメージＣＧ図（運転手からの視点）

（３）歩道、植樹及び信号、照明柱など

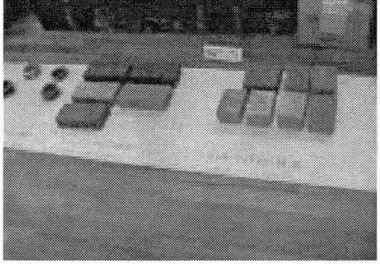
a) 歩 道

決定事項⇒・舗装材はこげ茶色の透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

歩道の舗装材については、意見交換の中でブロック系の舗装やアスファルト系の舗装などのそれぞれ長所や短所について討議した後に、実際に実物を確認し判断材料とした。（写真―１）

委員の方の主な意見など
・ﾚﾝｶﾞﾌﾞﾛｯｸは不等沈下がある。
・ﾌﾞﾛｯｸ系の舗装は、景観的にはよいが、耐久性に問題がある。
・ﾌﾞﾛｯｸは幾ら下に何かを敷いてもひずみがでそうな不安感がある。
・維持管理の費用がかからないものがよい。
・経年後に材質が駄目になるのはよくない。
・明るい舗装色は歩道の人が遠くにいる感覚となり危ない。
・単純で平面的な舗装がよい。
・ｱｽﾌｧﾙﾄ系の舗装は平坦で自転車でも通りやすい。
・黄色は点字ﾌﾞﾛｯｸと同色で、点字ﾌﾞﾛｯｸがわかりづらい。
・経年で色合いが変わるのはよくない。
・高知は明るい土地柄なので、あえて明るい色はいらない。
・茶色は歩行者などがはっきり見える。

表―１ 歩道について委員の方の意見など



写真―１ 舗装材のサンプル

b) 植 樹

決定事項⇒・歩道と車道の境界には、植樹桝を設置。

・低木は高さの低い、カンツバキとする。

・中央分離帯にはレッドロビンを植える。

・高木はモミジバフウとし、交差点部にアキニレを植える。

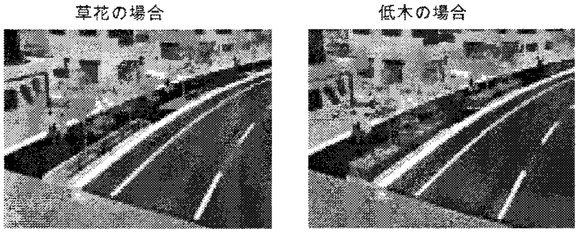
植樹については、まず、歩道と車道の間には植樹桝が必要かどうか、植樹桝の中は低木とするか草花とするかということについて、イメージ図（図―５）や整備事例（写真―２）を判断材料として、意見交換を行った。

つぎに、低木について植樹桝の中は、あまり高く伸びすぎず成長が遅く、冬場に花の咲くカンツバキとし、中央分離帯には、路線の統一性からレッドロビンを植えることとした。

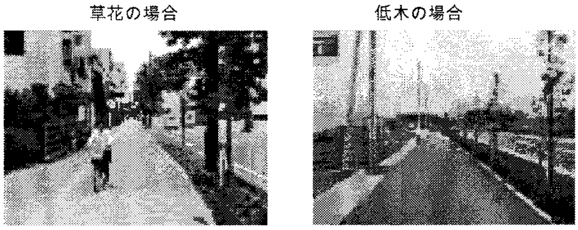
また、高木については、路線の統一性からモミジバフウとし、メインの交差点部には、「意味あいのある木」としてアキニレを植えることとした。

委員の方の主な意見など
（植樹桝の必要性について）
・植樹桝のあったほうが、歩道と車道が明確になり安全である。あまた、標識などの路上施設をおくことが出来る。
（低木の樹種について）
・低木があれば、環境面の効果も少し向上する。また、歩行者が横断できないので乱横断防止となり、運転者にとっても、歩行者の飛び出しがなく安心感がある。
・低木は高くなると、歩行者が見づらい。
・成長の遅い樹木を選定すべきである。
・春や夏は道路以外にも花があるが、冬の間は閑散としているので、できればカンツバキのような冬の花はありがたいと思う。
・中央分離帯には、路線の統一性からレッドロビンを植える。
（高木の樹種について）
・常緑樹も落ち葉が落ち、むしろ常緑樹の落ち葉が多い場合もある。
・土佐道路は東西に広がる道路であり、常緑樹の場合、北側の宅地が日陰となる。
・モミジバフウは秋の季節は美しい。
・土佐道路として、既設区間と出来るだけ一貫した樹種（モミジバフウ）にした方がよい。
・せっかくこの会をしたことの、何か意味のある木を植えたい。
・地域の独自性を持った木を選ぶのもよいが、調達性などが心配される。

表―２ 植樹について委員の方の意見など



図－5 植樹桝の中についての比較イメージ図



写真—2 植樹桝の中についての整備事例

c) 信号 、照明柱など

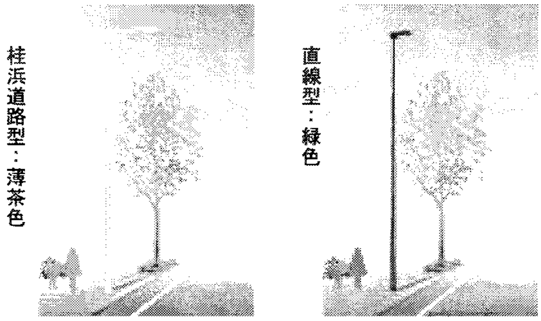
決定事項⇒・形状は直線タイプとする。

・色合いは、落ち着いた色合いとする。

信号や照明柱などについては、道路本線の周辺がごちゃごちゃしているので、出来るだけシンプルな形状とし、色合いは防護柵の色と合わせて落ち着いた色で事務局の判断で選ぶこととなった。

委員の方の主な意見など
・周囲が雑然としているため、シンプルなのがよい。 ・曲線は見慣れているので、直線がいい。 ・歩道舗装とマッチする、落ち着いた色合いとし、事務局の判断に委ねる。

表—3 照明、照明柱などについて委員の方の意見など



図－6 照明柱についての比較イメージ図

6. これからの方向について

現在、第４回目の意見交換会も無事終了し、今回は委員の方をはじめとする関係者の方の協力と理解もあり、首尾よく全体の意見を集約した形で終結しようとするところである。

また、意見交換の結果の取り決めされた成果について、全体のイメージＣＧ図を作成し、各委員の方々に配布し確認することとなっている。

そのほか、パンフレットを作成し、委員の方やその他一般の方にも配布し、地域の代表者として、委員の方々によって、土佐道路の道づくりに努力してもらったことについて、広くわかってもらう予定である。

7. おわりに

今回の意見交換会を経て、一般の方の公共事業への関心度の高さと積極的、建設的な意見の続出は、報道機関等がいう公共事業の説明責任の少なさや、従来の公共事業が、着手以前の透明性の欠如を指摘していることが多く、我々も反省するところがあり、利用者は、その道路に何を期待し、何を求めているのかを具体的な市民の意見で表現し、建設技術以前の問題として、公共事業の原点的な見方の必要性を、利用者側・市民側の視点で取り組むことの大切さが、住民参画の作業であることを感じた。

あわせて、このことは今後の公共事業の計画・事業化にとって、新たな取り組みで積極的な情報開示の下で、円滑に進めることの重要性と時代のニーズなどを地域の方々と共に感じることの必要性があることも感じた。

最後に公共事業における住民参画は、その事業種別等により、住民の意見・意向聴取の形が異なることは当然であるが、地域住民とともに創意し、形成していくことには、欠かせないプロセスであることを確認した意見交換会であったと実感した。